

# 箕面ユネスコ協会 ニュースレター

発行 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟  
箕面ユネスコ協会事務局  
〒562-0013 箕面市坊島 4-5-20  
みのおキューズモール2Fみのお市民活動  
センター内 箕面ユネスコ協会 (メール ｸﾞﾙｰﾌﾟ)  
E-mail sakappmm@skyblue.ocn.ne.jp



◆ 目 次 ◆  
○活動報告  
○お知らせ

♪ ホームページ折々に更新中！  
「箕面ユネスコ協会」  
で検索してください♡

## ●かやのお宝人權祭り ★★ さんま祭り！完売御礼 ★★

■2022年10月29日かやのお宝人權まつりに出展し、箕面ユネスコの皆で「さんま祭り」を行いました！人權お宝祭りは、戦争など誰かを巻き添えに傷つける事件が起こる中、地域に住むどんな人でも一緒に元気になろうと開催されたお祭りです。私たちは、気仙沼から脂ののったぴちぴちの秋刀魚をその場で網焼きし出来立てを提供いたしました！坂口さんお手製のはらこ飯も限定販売しましたがすぐに売り切れました！この日は少し寒く、風もきつかったのですが、秋刀魚だけでなくエビやソーセージや焼きおにぎりまで網焼きし、いつの間にか BBQ みたいに？！お隣にもホットコーヒーや箕面にあるレストランが出展されていて互いに交流しながら楽しく過ごした一日でした。みんな全身さんまの匂いをしみつけて帰りました！（山田祐加）



■このお祭りでは人と人の繋がりを感しました。1つ目はお客さんとの繋がりで、はらこ飯の出張販売では宮城県の郷土料理であることにとっても興味を持ってくれたお姉さんがいました。ほかにも、箕面に最近引っ越してきたばかりでなんとなく参加したという人もいました。このように普段関わることのない人に箕面ユネスコ協会や気仙沼のことを知ってもらい、活動の輪が広がっていくのだなと思いました。2つ目は箕面ユネスコ協会の会員の繋がりで、みどりさんが先生として生徒に慕われているところをはじめ、様々な人がブースを訪れる様子を拝見しました。このようにそれぞれの会員の繋がりがあって協会の活動が成り立っていると実感しました。また、会員同士の世代間交流も印象的でした。ハリスや水野くんが辻田パパに教わりながらさんまを焼いている姿はとても素敵な光景でした。普通に生活していれば出会うこともなく、見られなかったであろう光景が自然に存在していることの得難さと、すべての中心である坂口会長のすごさを感じました。（川本 実弥）



塩山さん着ぐるみ初レビュー！



2学期には、箕面市内のいろいろな学校と協働授業を行わせていただきました。今号のシターでは、ネパールとの出会いを続けている二つの学校のように紹介します。

2校それぞれに展開の仕方は違いますが、ネパールとの出会いを通して、子どもたちが接する機会の少ない文化を知り認め合う気持ちを育てほしい、自分自身の環境を振り返ったり、課題解決に向けて小さな一歩を踏み出したりしてほしい…そんな願いを込めた活動です。

### ●箕面市立豊川北小学校 5年生● 世界と出会おう編 ① ②



マララさんの演説動画を紹介し、教育の大切さについてクイズを交えながら考えてもらいました



大学生メンバーが、カンボジアやネパールでのボランティア体験で気づいたことや学びを伝えました



しっかりとお話を聞いてくれてありがとうございます！これからも楽しく勉強続けてね ダンネバード！

♪今ここで勉強ができて、ごはんを食べて、学校に通えることが幸せということがはっきり分かったから、学校生活がより楽しくなった。もっと、世界のことを知りたい。これから、書きそんじはがきを一枚でも多く郵便局にとどけて、学校にいけない子たちを少しでも減らして、だれもが幸せな学校生活を送ってほしい。

### ●箕面市立萱野小学校 5年生● つながろう！スマイルプロジェクト/世界編



牛が農業で大活躍しています。牛やヤギなどの家畜は、ネパールの人たちにとって、とても大切です



ネパールの人たちの美しいスカーフです。ナマステ〜やダンネバードのあいさつ練習もばっちり



学校のこと、食事のこと、そのほかなんでも…さっそく、質問を考えているみなさん

♪ネパールの人とつながると聞いてびっくりしました！いろんな質問を考えてみたいです。  
♪ネパールは、国旗で少し興味を持っていただけ、話を聞いて、すごく楽しそうだなと思いました。日本よりふべんかもしれないけれど、自然にふれあえていいなと思いました。

ネパール現地と zoom のテスト風景→

次号では、両校とネパールをつないだオンライン授業のようすやその後のこと、他校とのようすなどをお伝えしたいと思います(大濱淳子)



## ●大阪府立箕面東高校 1年生● 箕面東高校防災授業プログラム

11 住み続けられる  
まちづくりを



箕面東高校では1年生全クラスに向けて防災啓発の授業を実施しています。

今年度はゲストティチャーとして、NPO法人暮らしづくりネットワーク北芝と共に 箕面ユネスコ協会が協力することになり、10月から11月にかけて数回にわたり防災に関する授業をサポートしてきました。50分授業の前半では、4年前の北大阪地震の時に、各自どこにいてどんな被災状態だったのか、地震後にどんな困ったことがあったのかを各自付箋に書いて黒板に貼り発表して、日ごろからどんな備えが必要かを話し合いました。後半は、実際に高校にいて被災した場合の対応力を試す体験授業でした。教室に一晩泊まるというシチュエーションで、教室のあらゆるものを利用して自分たちの場所を確保する中、多様な人々が教室に入ってくるという想定で、どんな対応ができるかのワークショップです。教室に訪れる人の役を先生や暮らしづくりネットワークのメンバーやユネスコのメンバーが演じました。私は認知症のおじいちゃんに付き添う家族の役。大濱さんはペットの犬を連れてた市民の役をしたそうですが、実際にあるだろうなと感じながら演じました。生徒の皆さんは思った以上に、その場、その人に応じた対応をしていました。災害が実際に起きても、日ごろの防災体験を活かせるように意識することが、自分たちの命を守ることにつながるんだと感じてもらえればとても嬉しいことです。（須貝 昭子）



## ●「東日本大震災を忘れない」チャリティー物産展

### ☆ みのおNPOフェスタ 2022 ☆

10月23日に、NPOフェスタが開催されました。行動制限も緩和され、天候にも恵まれてかやの三平橋は人通りも多く、感染対策に配慮しながら行いました。今年も坂口会長お手製のはらこ飯は販売開始すぐに完売。東北スタディーツアーで仕入れてきた物産品もリピーターの方も多く、昨年お友達に差し上げたら大好評だったと、たくさんの品を買って下さる方や、今年は仕入れる事のできなかった気仙沼向洋高校のさんま缶を買いに来ました…という方もありで、気がつけば今年も完売となりました。被災地の物だからではなく、被災地の美味しいものをお伝えしたいという思いと被災地を忘れないというコンセプトで続けてきた事が、少しずつ伝わってきたと感じながら、これからも継続していきたいと思います。（石橋 晴代）



気仙沼からの物産をたくさん準備。ボランティア活動の掲示もばっちりです



たくさんの方々とお話ししながら、物産を販売しています



にぎわうフェスタ



宮城のご当地メニュー「はらこ飯」

## ● 箕面ユネスコ協会 ～東日本大震災を忘れない～被災地を訪ねて



10月16、17日、坂口会長はじめ10名の会員は、東日本大震災の被災地を訪問しました。当協会は発足当初より「3,11を忘れない」を合言葉に支援活動しており、その一環としてスタディーツアーを実施しています。



まず、気仙沼市と陸前高田市の東日本大震災伝承館を見学。何度訪ねても「自分ならどう行動するか」自問自答し、自然災害の



教訓を学び直し、防災意識を高める重要性を改めて肝に銘じます。そして、気仙沼市大島のヤマヨ水産・小松さんを訪問。壊滅的被害を受けた牡蠣養殖事業の復興、朝ドラ「おかえりモネ」の撮影に協力、さらにヤマヨ食堂を新装開店し、震災の苦難をみごとに乗り越えられました。気仙沼内湾の景色を眺めながら、朝ドラ出演者との写真や女優・竹下景子さんから贈られた胡蝶蘭に囲まれて、牡蠣づくしのお料理に舌鼓を打ちました。さらに、今回は同市八瀬地区の旧月立小木造校舎で開催



される「八瀬・学校そば」にボランティア参加。調理場や配膳などお手伝いして地元の方々と交流しました。その晩は、同地区の立派な古民家に民泊し、山里のあたたかいおもてなしに一同感激しきりでした。現地に足を運ぶと心新たにすることが多々あります。今後も継続して支援していきたいと強く思います。（大槻 晴美）

## ● 近畿ブロックユネスコ活動研究大会 in 舞鶴

2022年11月5日、舞鶴にて「近畿ブロック研究会 in 舞鶴」が開催されました。

■国内委員でもあり、我が箕面ユネスコ協会の大濱理事による国内委員会報告は、わかりやすくまとめられており、さすがです！の一言につきました。また、高校生の報告や上映は、平和な社会の構築と持続可能な社会の推進、さらに未来に繋がることを期待させてくれる内



容でした。午後からは4分科会に別れ、事例報告と研究協議が行われました。私が参加した第4分科会は、「防災、減災教育、被災地から学ぶ運動」についてでしたが、被災地支援は、箕面ユネスコ協会を支えている活動のひとつであり、分科会での事例報告は、まさに私たちがやってきた活動そのもので、これからも自信をもって活動できることを実感しました。そして、グループに分かれてのワークショップでも、グループの中心になって話をしている箕面ユネスコメンバーを頼もしく思いました。

大会を無事に終えることができ、よかったです。（花田 純子）

■私の母の故郷である舞鶴で近畿ブロックのユネスコの研究会があると知り、坂口代表はじめとするメンバー6人と舞鶴に行きました。「今、そして明日の地球社会に生きる ～つなぐ 広げる 未来のために今、何をしなければならぬか～」をテーマに掲げて、舞鶴市商工観光センターを会場に開催されました。行って見て驚いたのは、舞鶴の伝統や地域の活動の様子など、今まで知らなかった舞鶴の歴史に触れたことでした。ユネスコの運動を通して、舞鶴が戦後の引揚者の受け入れ地の歴史として、ユネスコの記憶遺産に認定されています。その土地に暮らす人々の歴史がユネスコの記憶遺産という人の記憶の中に価値を見出す大変貴重なものなのです。そんな舞鶴の記憶遺産を守りながら語りつぐ舞鶴引揚記念館の取り組みを、学芸員と地元の高校生ボランティアの語り部発表が大変印象的でした。今回は、大濱淳子さんが日本ユネスコ国内委員に就任し、初めて国内委員会の報告をするという誇らしい出来事もありました。午後からはメンバーが4つの分科会に分かれて受講し、私は第2分科会「学校や市民と連携したESDの推進」に参加しました。京都ユネスコ協会の同志社小学校との連携事例や和歌山の地域教育機関との連携事例など、地域の学校といかに日ごろから連携を深めているのか、とても興味深い活動でした。私にとって慣れ親しんだ舞鶴ですが、ユネスコ活動を通して再発見した1日になりました。（須貝 昭子）